

九州の花きの概況



平成22年9月

九州農政局生産経営流通部

園芸特産課花き種苗係

九州の概況

1. 作付面積
2. 生産額
3. 出荷数量
4. 認定農業者数の推移等
5. 切花の卸売価格及び価額
6. 需要の動向

参考1 我が国の輸出入の概況

参考2 主要花きの農業経営収支

※利用に際しての留意事項

1 我が国の花きの生産状況に関する統計は、農林水産省統計部による「花き生産出荷統計」(A)、「生産農業所得統計」(B)及び「農林水産省生産局果樹花き課花き対策室による「花木等生産状況調査」(C)の相互補完により構成されるが、本表の作成にあたっては、下表による数値を利用した。

2 流通状況に関する統計は、農林水産省統計部の「花き流通統計調査」による数値を利用した。

3 需要の動向における切花の県庁所在地1世帯当たり年間購入額は総務省統計局の「家計調査」による数値を利用した。

4 数値についてはラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

5 「－」は事実のないもの、「0」は単位に満たないもの、「…」は事実不詳または調査を欠くもの、および「x」は個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値を公表しないものである。

種 類	作付面積	出荷数量	生産額	栽培農家数
切花類	A	A	B	A
鉢もの類	A	A	B	A
花壇用苗もの類	A	A	B	A
花木類	C	C	C	C
球根類	A	A	B	A
芝	C	C	B	C
地被植物	C	C	C	C

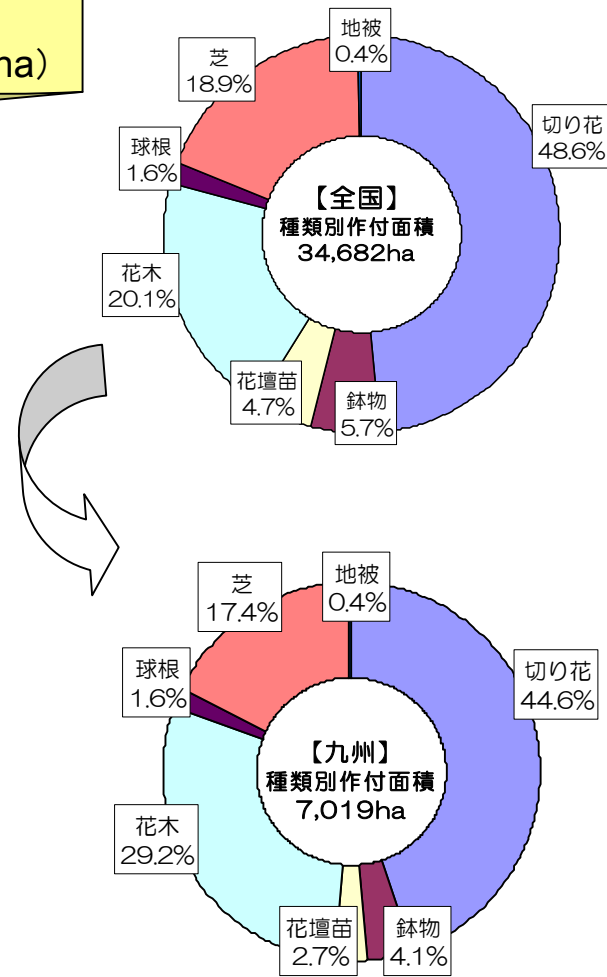
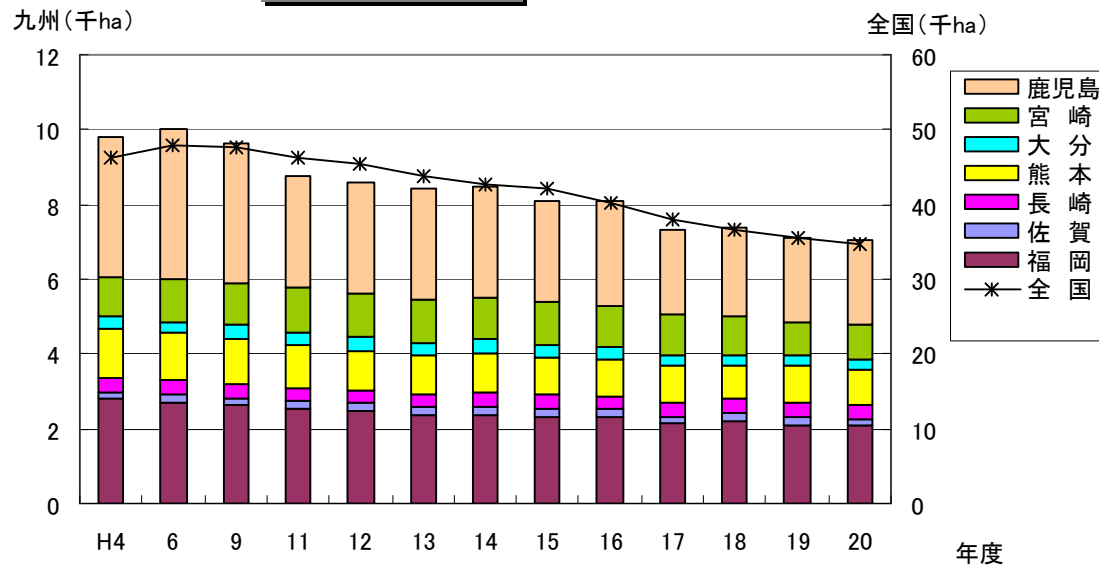
1 作付面積

- 管内花き類の作付面積は減少傾向であり、平成20年産は対前年比で1.3%減少し7,019ha
- 平成9年産対比では27.1%もの減少
- 県別では鹿児島県2,244ha、福岡県2,081haで、この2県で九州の6割以上を占めている
- 九州が全国に占めるシェアは20.2%

※作付面積全国ランキングトップ3

1位:茨城県(4,587ha) 2位:愛知県(2,814ha) 3位:鹿児島県(2,244ha)

花きの作付面積の推移



資料:農林水産省統計部「花き生産出荷統計」及び農林水産省生産局花き対策室「花木等生産状況調査」

注1:切花類、鉢もの、花壇用苗もの、球根類は「花き生産出荷統計」により、花木類、芝、地被植物類は「花木等生産状況調査」による。

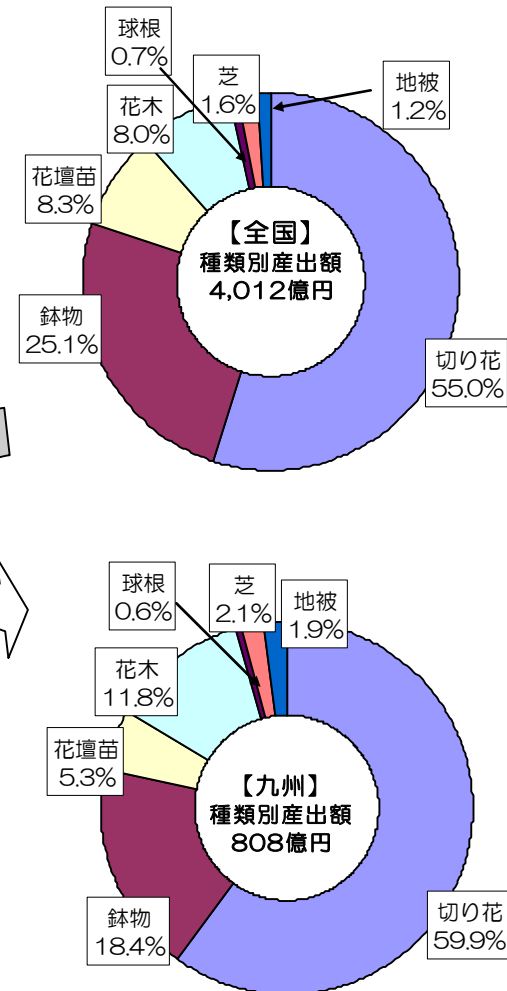
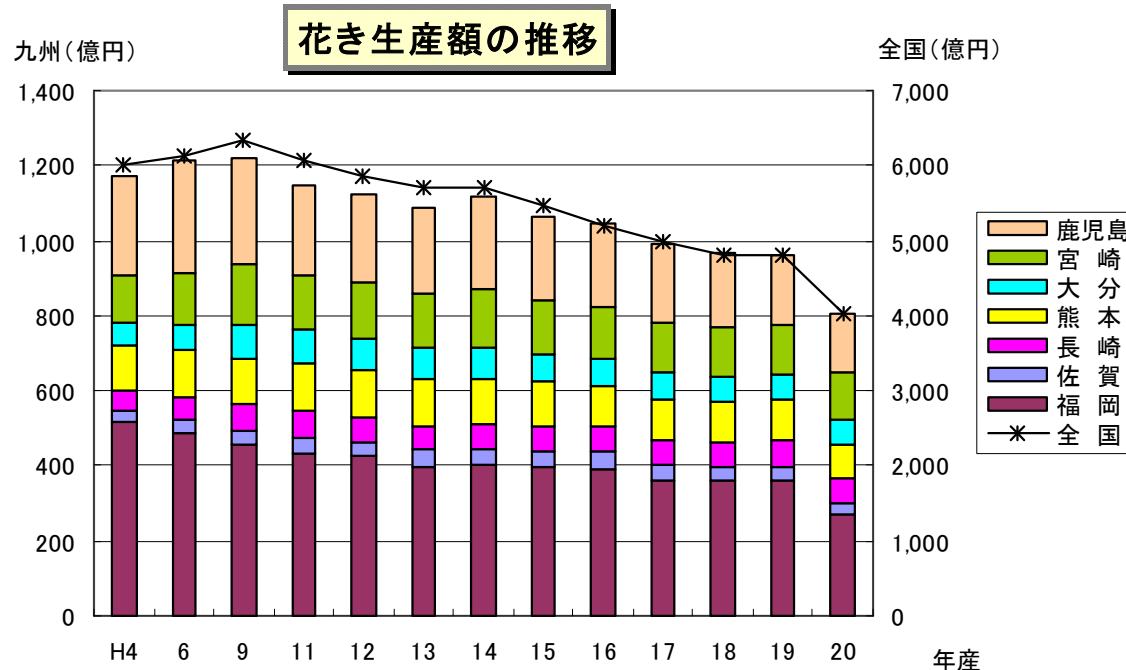
注2:棒グラフは各県推計値の積上げであり、九州での作付面積の値と異なる。

2 生産額

- 管内花き類の生産額は減少傾向で、20年産は対前年比で16.1%減少し808億円
- 平成9年産対比では34.3%と大幅に減少
- 県別では福岡県が270億円(全国第2位)、鹿児島県が161億円(全国第6位)と上位を占めている
- 九州の全国に占めるシェアは20.1%

※生産額全国ランキングトップ3

1位:愛知県(659億円) 2位:福岡県(268億円) 3位:千葉県(263億円)



資料:農林水産省統計部「生産農業所得統計」及び農林水産省生産局花き対策室「花木等生産状況調査」

注:切花類、鉢もの、花壇用苗もの、球根類、芝は「生産農業所得統計」により、花木類、地被植物類は「花木等生産状況調査」による。

3 出荷数量

(1) 切花・花壇用苗もの

○切花の出荷数量は微減傾向にあり、平成20年産は対前年比で1.5%減少し1,028百万本と全国の21.7%のシェアを占める

県別では福岡県が最も多く284.5百万本(全国3位)、続いて鹿児島県が250.0百万本(同4位)

○花壇用苗ものはガーデニングの普及・定着により平成13年産まで大きく増加したものの、その後は減少傾向にある

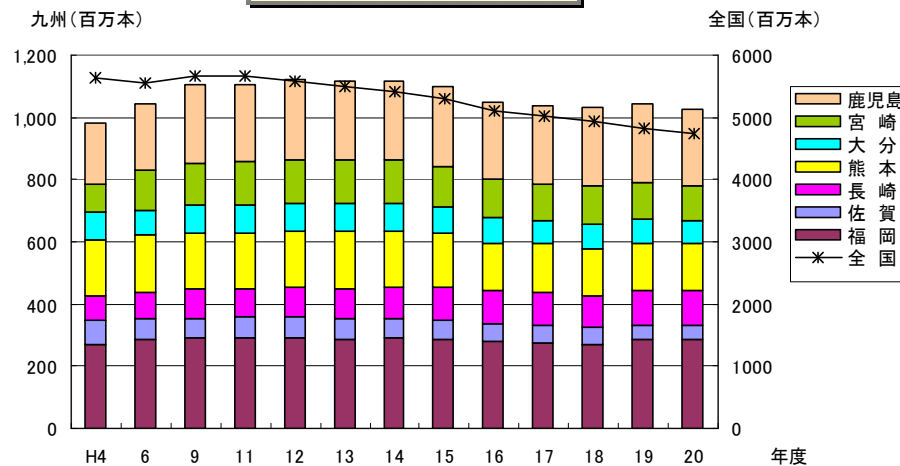
※切花出荷量全国ランキングトップ3

1位:愛知県(731.3百万本) 2位:沖縄県(369.5百万本) 3位:福岡県(284.5百万本)

※花壇用苗もの出荷量全国ランキングトップ3

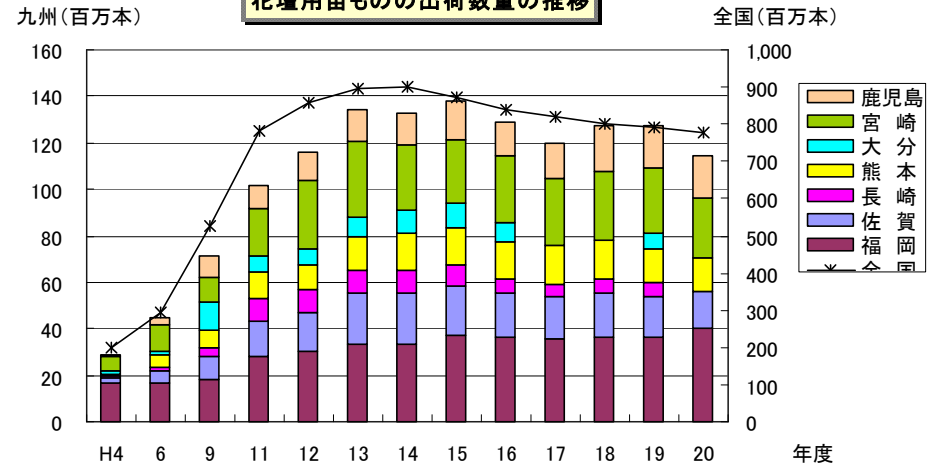
1位:愛知県(73.8百万本) 2位:埼玉県(64.7百万本) 3位:千葉県(58.7百万本)

切り花の出荷数量の推移



資料:農林水産省統計部「花き生産出荷統計」

花壇用苗もの出荷数量の推移



資料:農林水産省統計部「花き生産出荷統計」

3 出荷数量

(2) 鉢もの・花木類

○管内の鉢ものの出荷数量は平成15年産をピークに減少傾向にあり25.5百万鉢
 県別では福岡県が10.2百万鉢（全国8位）で、九州の40.0%を占めている
 管内の鉢ものの出荷数量の統計データは全県対象となっていない
 ○管内の花木類は近年増加しており、全国の58.0%のシェアを占めている
 特に福岡県が全国でも最も多い66.5百万本と、全国の48.1%ものシェアを出荷している

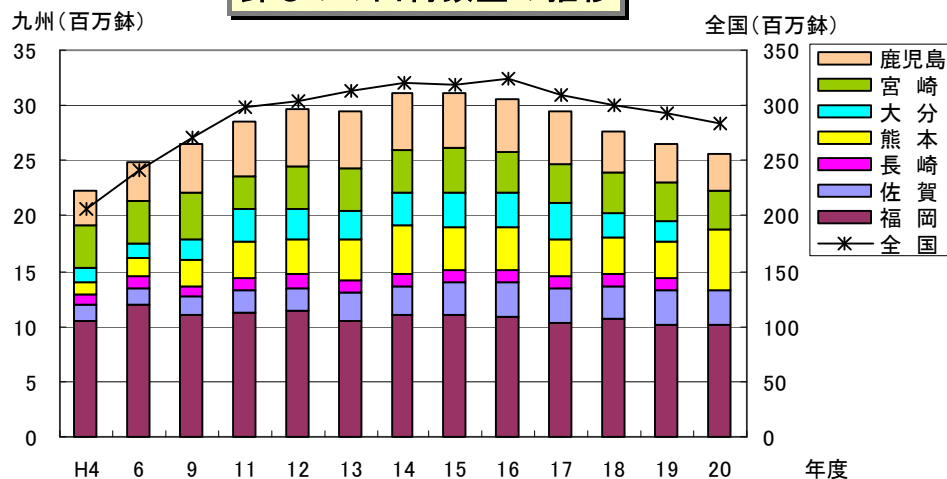
※鉢もの出荷量全国ランキングトップ3

1位:愛知県(63.8百万鉢) 2位:埼玉県(30.9百万鉢) 3位:岐阜県(27.9百万鉢)

※花木類出荷量全国ランキングトップ3

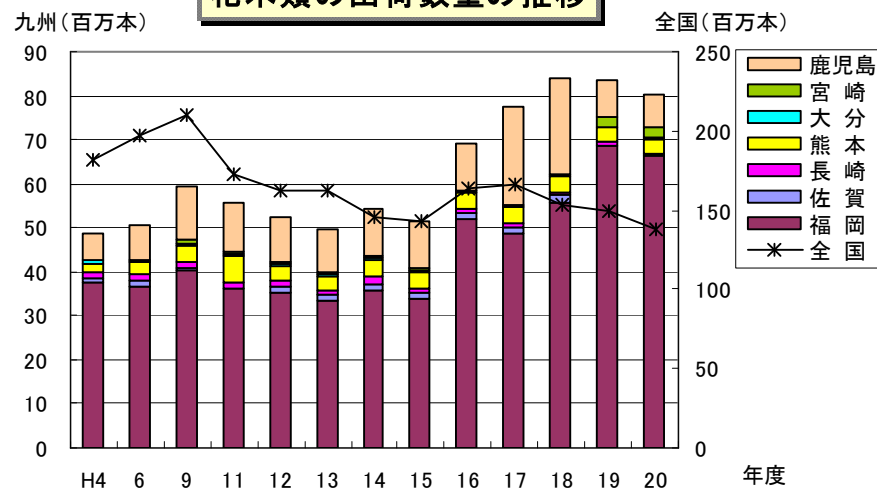
1位:福岡県(66.5百万本) 2位:愛知県(10.6百万本) 3位:三重県(10.6百万本)

鉢ものの出荷数量の推移



資料:農林水産省統計部「花き生産出荷統計」

花木類の出荷数量の推移



資料:農林水産省花き対策室「花木等生産状況調査」

3 出荷数量 (3)球根類・芝

- 管内の球根類の出荷数量の統計データは全県対象となっていない
平成12年産をピークに減少傾向にある
- 芝も管内全県の統計データはない
九州全体では対前年比9.5%増加した

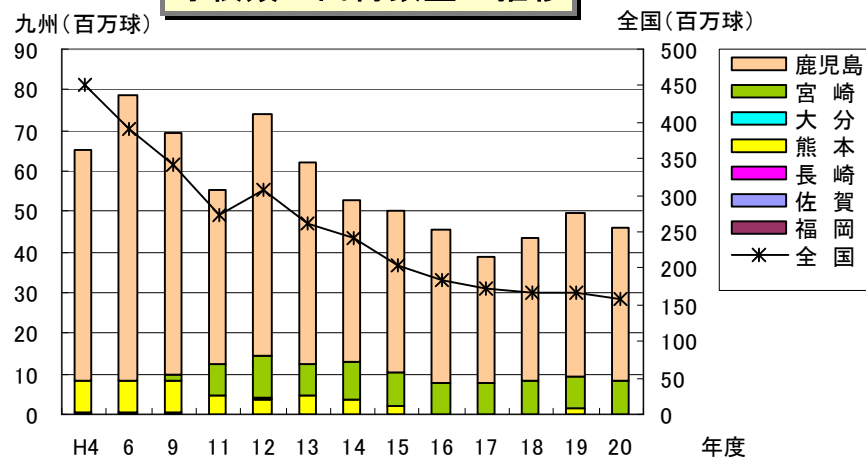
※球根類出荷量全国ランキングトップ3

1位:鹿児島県(37.7百万球) 2位:新潟県(32.2百万球) 3位:富山県(29.0百万球)

※芝の出荷量全国ランキングトップ3

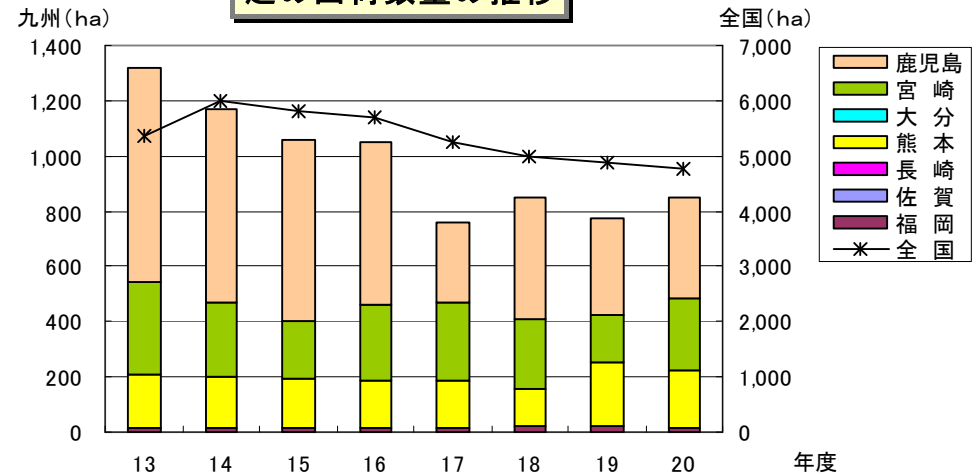
1位:茨城県(2,940ha) 2位:鳥取県(578ha) 3位:鹿児島県(361ha)

球根類の出荷数量の推移



資料:農林水産省統計部「花生産出荷統計」

芝の出荷数量の推移



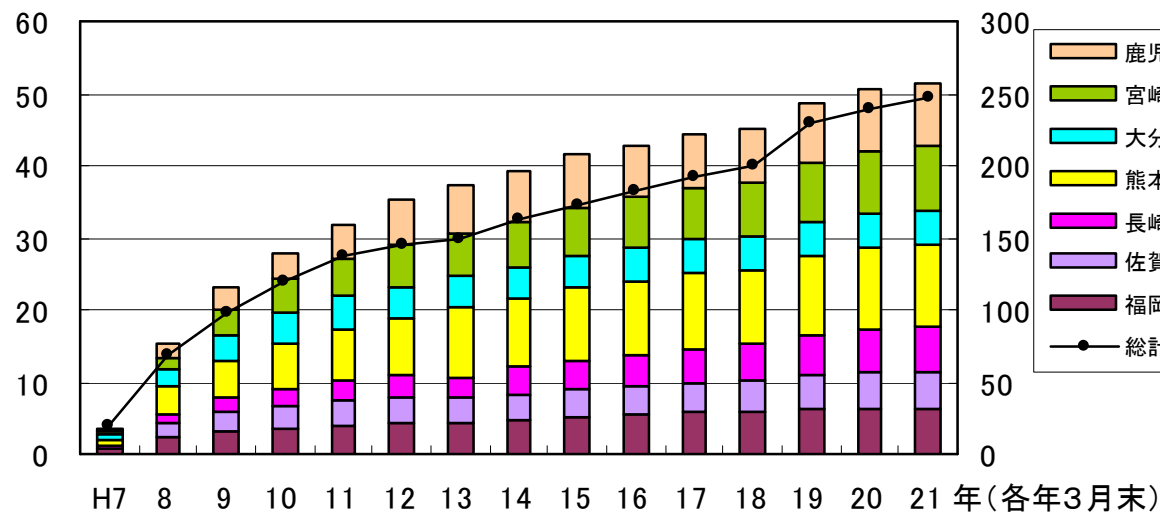
資料:農林水産省花き対策室「花木等生産状況調査」

4 認定農業者数の推移等(九州)

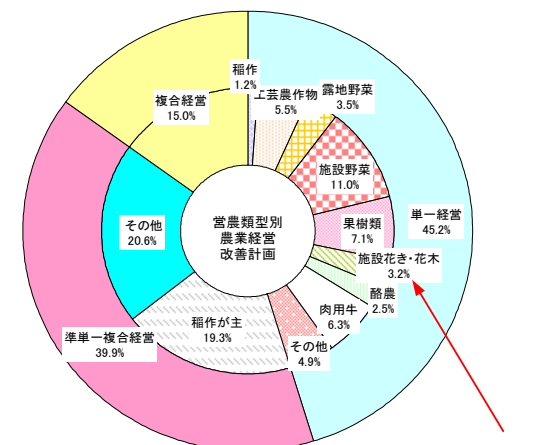
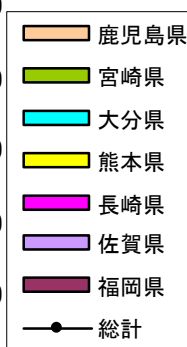
- 平成21年3月末時点で、農業経営基盤強化促進法に基づく農業経営改善計画の営農類型別認定状況は、単一経営は44%、準単一複合経営は40%で、法人は単一経営が71%となっている。
- 単一経営では「施設野菜」が11.0%と最も多く、「施設花き・花木」は3.2%となっている。
- 準単一複合経営では「施設花き・花木」は0.8%となっている。
- 法人については、「施設花き・花木」の単一経営は5.2%と構成比の割合は高くなっている。

農業経営改善計画の認定状況

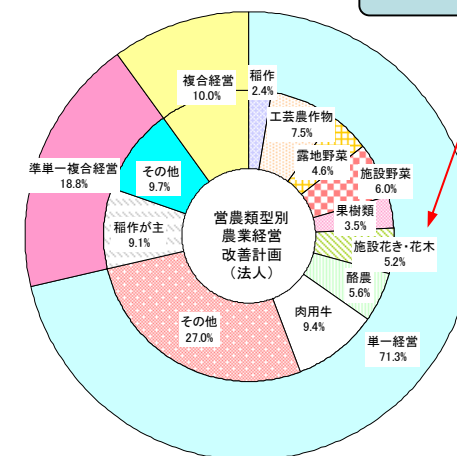
(九州:千人)



(全国:千人)



施設花き・花木



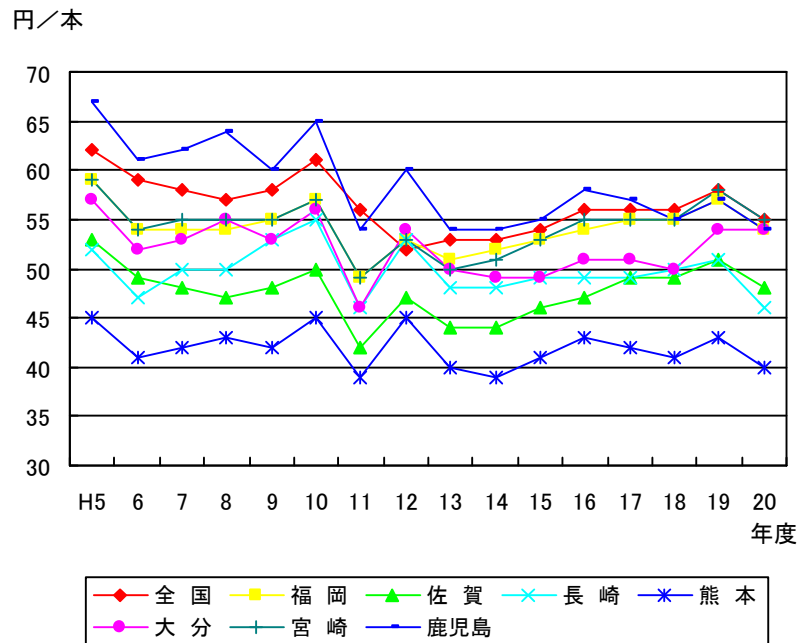
資料:農林水産省経営局「農業経営改善計画の認定状況」

注1:各年3月末現在の認定農業者数

5 切花の卸売価格及び価額

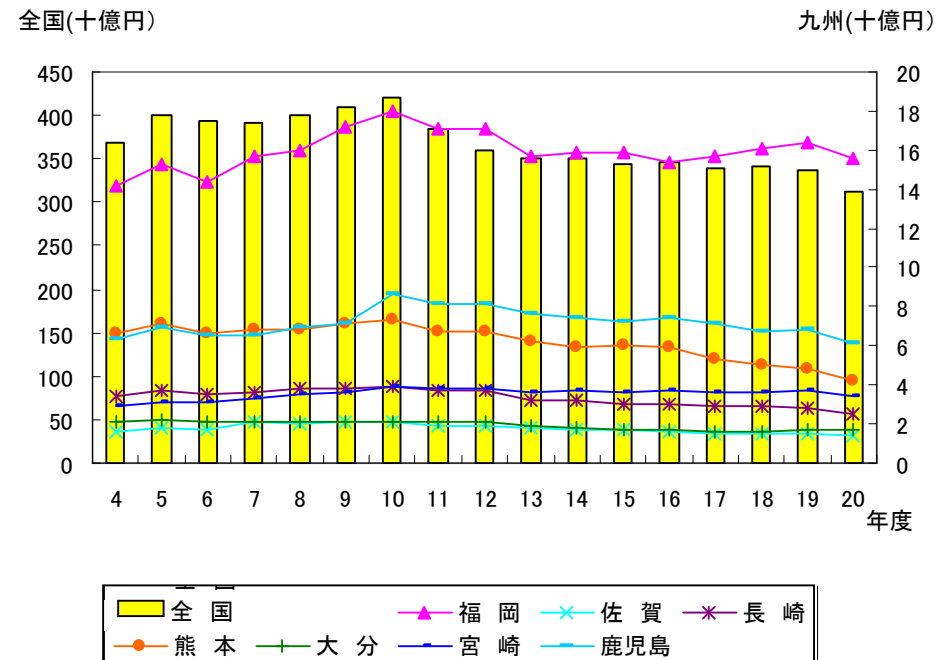
- 平成20年度の管内各県の卸売価格は、すべて全国平均を下回った
- 卸売価額も近年減少傾向にあり、平成20年度の九州の卸売価額は対前年比で7.0%減少し352.2億円(全国に占めるシェアは11.3%)

切り花の卸売価格の推移



資料:農林水産省統計部「花き流通統計調査」

切り花の卸売価額の推移

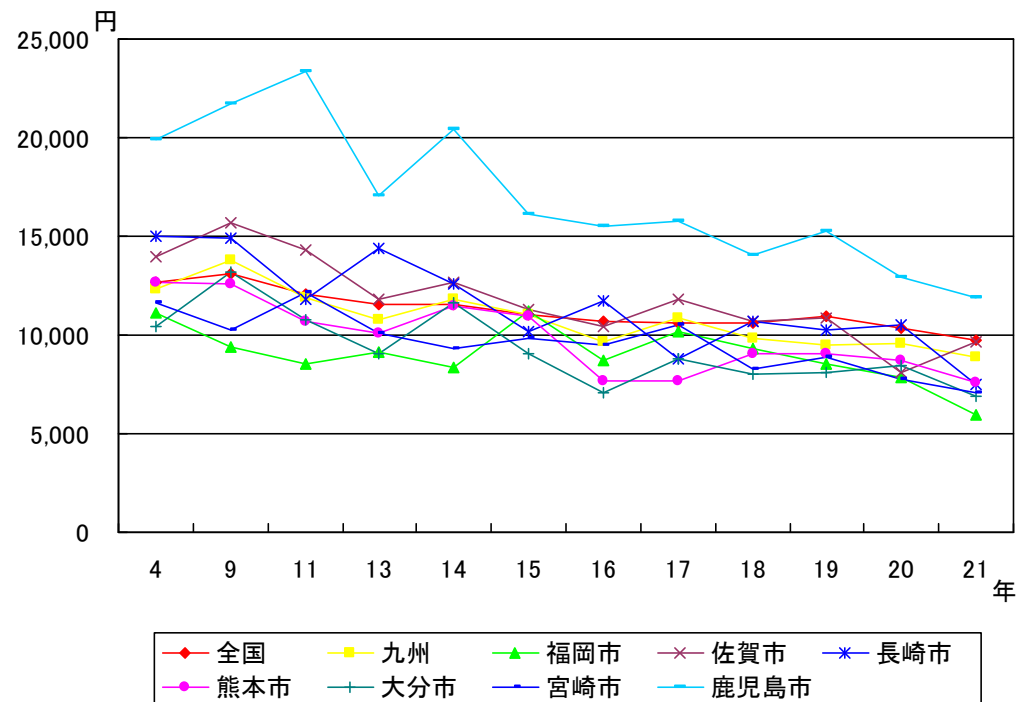


資料:農林水産省統計部「花き流通統計調査」

6 需要の動向

- 平成21年の切花の1世帯当りの年間購入額は、九州8,874円と全国平均9,722円を下回る
- 都道府県庁所在市別では、鹿児島市が11,903円と全国9位だが、その他の市では低迷している

切り花の1世帯あたり年間購入額の推移



※切花の1世帯当り年間購入額
全国ランキングトップ3

- 1位:和歌山市(16,579円)
- 2位:仙台市(14,780円)
- 3位:高松市(14,103円)

※園芸品・同用品の1世帯当り年間購入額
全国ランキングトップ3

- 1位:前橋市(14,077円)
- 2位:水戸市(12,025円)
- 3位:長野市(11,979円)

資料:総務省統計局「家計調査」

注:「家計調査」結果表の変更に伴い、平成18年までは「2人以上の世帯(農林・漁家世帯を除く)」、平成19年以降は「総世帯」である。
なお本統計には、川崎市、浜松市、堺市及び北九州市が含まれる(全51市)

参考 我が国の輸出入の概況

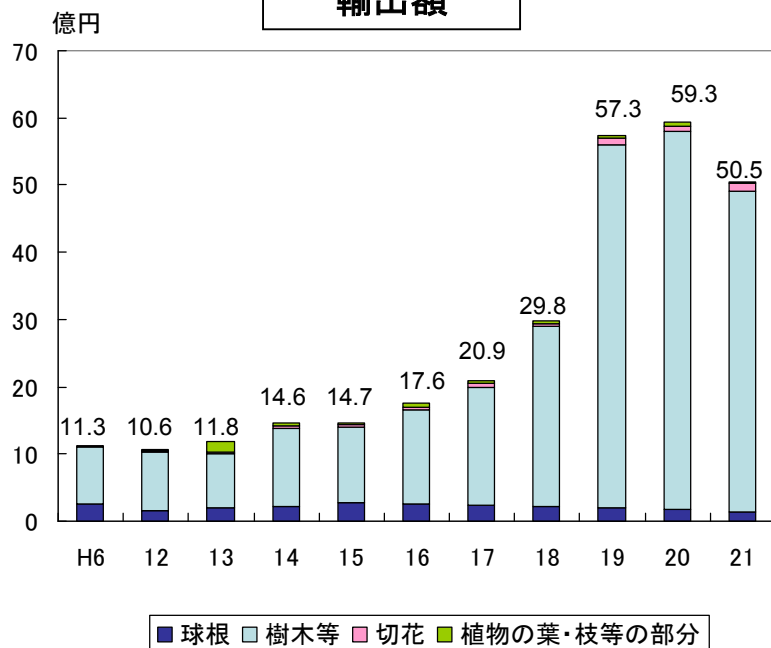
(1) 輸出

- 切花の輸出数量は近年増加傾向
- 樹木等の輸出額は盆栽・日本庭園ブームに乗り、特に香港、中国を主に増加している
- 輸出事例として岩手県のリンドウ、高知県のグロリオサ、島根県のボタン等があり、評価も高い

※切花の輸出先トップ3(輸出額ベース)

1位:中国(44%) 2位:アメリカ合衆国(27%) 3位:オランダ(14%)

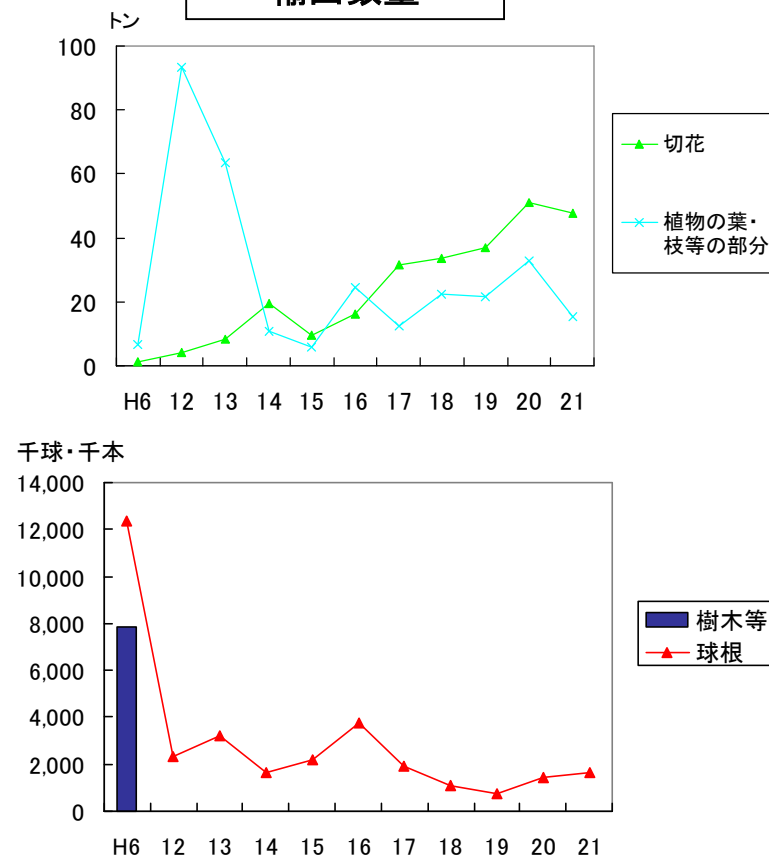
輸出額



資料:財務省「日本貿易月表」

注:樹木等の輸出数量は、平成8年から集計単位が本数とkgが混在するため集計不可。

輸出数量



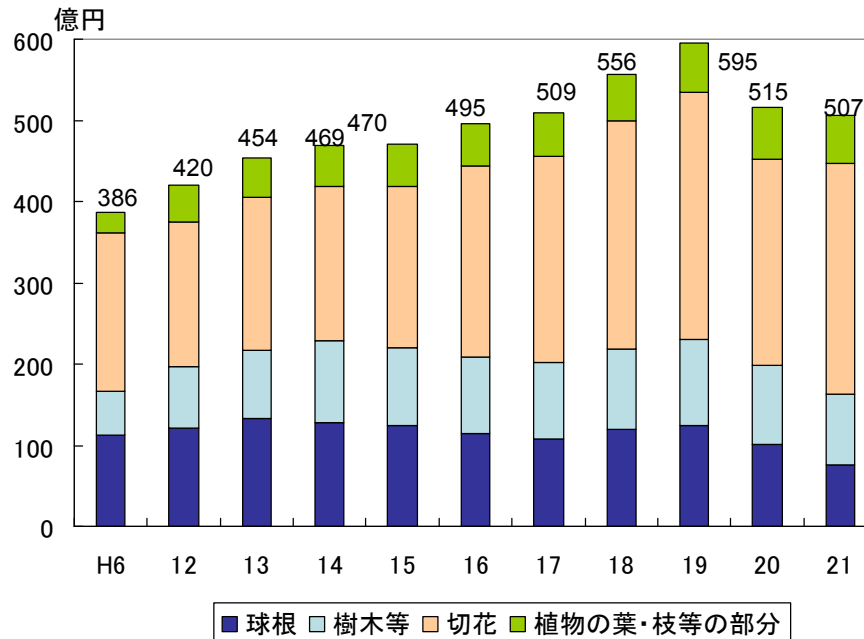
(2) 輸入

- 球根は減少傾向にあるが、切花、植物の葉・枝等の部分は増加している。
- アフリカ、南米、東南アジア等、気候が温暖で安定している地域での生産活動が活発
- マレーシアのキク、コロンビアのカーネーション、タイのラン類、ケニアのバラ等産地が特化傾向

※切花の輸入額トップ3

1位:マレーシア(22.3%) 2位:コロンビア(17.8%) 3位:中国(11.8%)

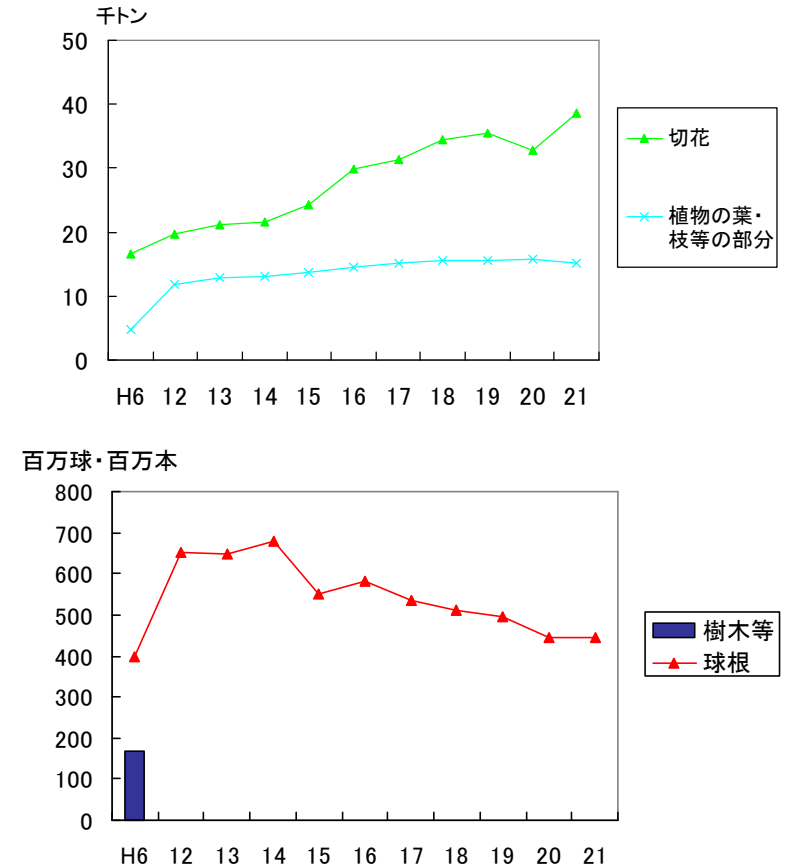
輸入額



資料:財務省「日本貿易月表」

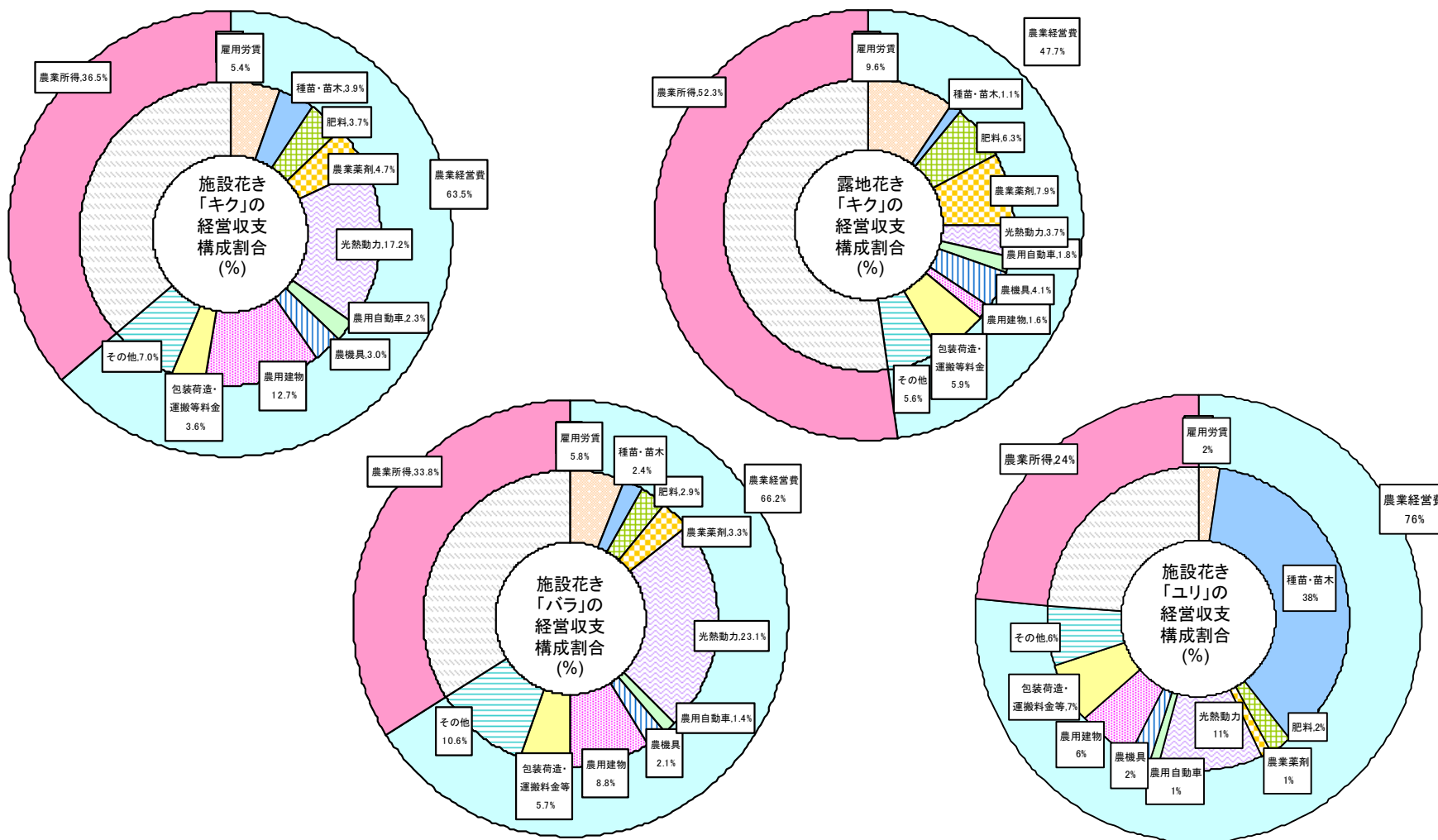
注:樹木等の輸出数量は、平成8年から集計単位が本数とkgが混在するため集計不可。

輸入数量



参考2 主要花きの農業経営収支

○施設花きの10aあたり農業所得は、バラが最も高く194万2千円となっている。
 ○家族農業労働1時間当たりの農業所得は、施設キクが最も高く1,139円となっている。



資料：農林水産省統計部「農業経営統計調査報告 平成19年産品目別経営統計」